| （技術名）**フラワーアレンジメントなど幅広い用途に適する秋スプレーギクの新品種「シュリカナサ」** | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （要約）秋スプレーギクの新品種「シュリカナサ」の花形は、デコラ咲きの大輪で、フラワーアレンジメントなど仏事以外の用途に適する。沖縄の栽培環境に適応し、安定した切り花および穂木生産ができる。 | | | | | | | |
| 農業研究センター・野菜花き班 | | | | 連絡先 | 098-840-8506 | | |
| 部会名 | 野菜・花き | 専門 | 育種 | 対象 | キク | 分類 | 普及 |
| 普及対象地域 | 沖縄県全域 | | | | | | |

**［背景・ねらい］**

近年、仏花のイメージを感じさせない、マムと呼ばれる新しいタイプのスプレーギク品種が増えている。マムは、フラワーアレンジメントなど幅広い用途に利用できることから需要が増加しており、本県でも生産が望まれている。しかしながら、これまで導入された国外や県外で育成された品種は、沖縄の栽培環境に適さないことが多いことから、本研究では、本県で安定して切り花生産および増殖できる品種を育成する。

**［成果の内容・特徴］**

１．「シュリカナサ」は、デコラ咲き（ダリアの花形に似た八重咲）の大輪系スプレーギクである。花色は淡紫ピンクで、花弁色は展開するにつれて淡くなり、中心が濃く、外側に向かってグラデーションがかかる。花弁は長く柔らかく、ゆるい捻れをもつ（図１ａ）。

２．夏期高温期の親株栽培では、既存の栽培品種よりも立枯れは少なく、穂木生産量は多く確保できる（表１）

３．11 月～４月出荷作型における秀品率は、いずれの時期も 50%以上の高い値を示し、到花日数は 49～52 日と安定している。伸長性に優れ、定植後３～3.5 ヶ月で切花長１m を確保できる（表２）。

４．12 月に収穫した後に電照を再開し、株出し栽培（２度切り栽培）することにより、３月に収穫が可能である（表３）。

５．県内出荷団体による 2019 年から 2022 年の４年間にわたる試作において、「シュリカナサはダリアのような花形でフラワーアレンジメントなど新しい用途に適する」という高い評価を得ている。

６．切り前（収穫時期）は５分咲き（図１ｂ）が適し、出荷を想定した輸送後の切り花観賞期間は、フラワーアレンジメントとして利用するのに十分な 14 日以上である（表４）。

**［成果の活用面・留意点］**

１．本県のキク生産において、11～４月出荷作型で活用が見込める。

２．親株栽培時は高温の影響を避けるため、50%程度の遮光を行う。

３．花品質の低下を避けるため、栽培には、開花期に雨よけが必要である。

４．仕立てはディスバッド（一輪仕立て）が適する。

５．収穫は、５分咲き（図１ｂ）を過ぎると、フラワーキャップの装着が難しくなるので注意が必要である。

６．電照に鋭敏に反応するので、消灯後は隣接圃場からの電照漏れ等に注意が必要である。

７．本品種は、イノチオ精興園株式会社との共同研究で育成された。栽培を希望する生産者は、イノチオ精興園と栽培許諾契約を締結する必要がある。なお、栽培は沖縄県内に限定される。

［具体的データ］

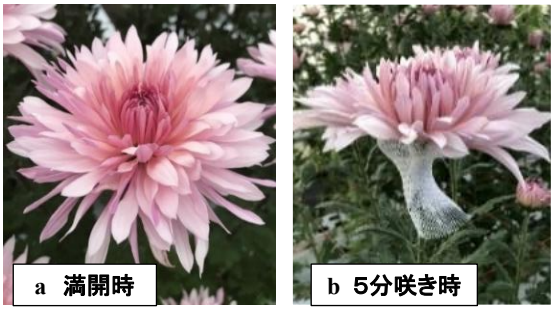


図1 「シュリカナサ」の花

5分咲きは最も外側の花弁が水平になった頃
（撮影：2020 年 12 月農業研究センター）

表1 親株栽培における立枯れ率及び穂木生産量

| 品種名 | 立枯れ率（%） | 穂木生産量（千本/a） |
|---|---|---|
| シュリカナサ | 13 | 55 |
| セイオペラピンク（比較） | 92 | 10 |
| セイヨーク（比較） | 46 | 43 |

データは 2020 年度と 2021 年度の平均値である。
比較品種は県内で栽培されている品種である。
2020 年度：定植 6 月 25 日、採穂期間 8 月 13 日～9 月 28 日
2021 年度：定植:5 月 18 日、採穂期間 7 月 2 日～9 月 9 日
栽培：平張施設・天井遮光（遮光率 51%；黒 2mm ネット使用）
立枯れ率：枯死した株数/定植株数

表2 作型別の切り花特性及び収量性

| 作型（年度） | 試験場所 | 土壌型 | 定植月日 | 摘心月日 | 消灯月日 | 品種名 | 消灯時茎長（cm） | 収穫月日 | 到花日数 | 切花長（cm） | 調整重量（g） | 花径（cm） | 収穫本数（本/10a） | 秀品率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11月出荷（2021） | 農研センター（糸満市） | ジャーガル | 8/6 | 8/13 | 9/30 | **シュリカナサ** | **63** | **11/20** | **50** | **103** | **54** | **13.9** | **47,222** | **81** |
| | | | | | | セイメロディピンク(比) | 44 | 11/19 | 49 | 99 | 48 | 8.4 | 45,635 | 59 |
| 12月出荷（2020） | 農研センター（糸満市） | ジャーガル | 9/23 | 9/30 | 11/9 | **シュリカナサ** | **44** | **12/31** | **52** | **104** | **42** | **12.9** | **55,504** | **57** |
| | | | | | | セイメロディピンク(比) | 42 | 12/28 | 50 | 95 | 41 | 8.1 | 65,922 | 37 |
| 2月出荷（2021） | 農研センター（糸満市） | ジャーガル | 10/25 | 11/5 | 12/15 | **シュリカナサ** | **36** | **2/3** | **50** | **100** | **49** | **14.2** | **44,345** | **68** |
| | | | | | | セイメロディピンク(比) | 28 | 1/31 | 46 | 90 | 46 | 8.5 | 53,571 | 37 |
| 3月出荷（2019） | JA実験農場（八重瀬町） | 島尻マージ | 11/22 | 12/2 | 1/17 | **シュリカナサ** | **－** | **3/8** | **50** | **98** | **53** | **12.8** | **50,600** | **64** |
| 4月出荷（2020） | 花弁農協農場（名護市） | 国頭マージ | 1/12 | 1/26 | 3/1 | **シュリカナサ** | **－** | **4/19** | **49** | **124** | **63** | **13.6** | **55,000** | **69** |

各試験は開花時にビニル被覆できる平張施設及びネットハウスで実施した。整枝本数は 2～3 本/株である。1 月出荷作型は未実施である。
到花日数：消灯から収穫までの日数（再電照なし）、調整重量：切花を長さ 80cm にカットし下葉を 25cm 除去した時の重量
秀品率：切花長 80cm 以上で調整重量 40g 以上の切花の割合

表3 12 月収穫後の株出栽培（2 度切り栽培）における収穫時期及び切り花特性等

| 消灯時茎長（cm） | 2回目収穫月日 | 到花日数 | 切花長（cm） | 収穫本数（本/10a） | 秀品率（%） |
|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 3月22日 | 50 | 100 | 67,500 | 52 |

収穫：2021 年 12 月 7 日、電照開始：12 月 7 日、基肥施用：12 月 9 日、萌芽整理：12 月 16 日、整枝本数：2～3 本/株、液肥追肥：12 月 24 日,2022 年 1 月 2 日、消灯：2 月 1 日

表4 切り前（収穫時期）の違いと輸送後の切り花の状態と花持ち日数

| 切り前 | 輸送後の切り花の状態 | 花持ち調査 | |
|---|---|---|---|
| | | 花持ち日数 | 評価 |
| 5分咲 | 問題なし | 16.8 | ○ |
| 7分咲 | 一部の花弁に傷みあり | 10.0 | △ |

輸送時期：2021 年 1 月 4,23 日、輸送方法：航空（那覇－広島）
調査実施場所：イノチオ精興園花持ち試験室
調査方法：輸送後水切りし 60cm にカットして開始。調査は日本花普及センター切り花評価リファレンステストマニュアルに準じた。
評価：○;花持ち日数 14 日以上、△;7 日以上
切り前別の花持ち日数：$p<0.05$（分散分析、n=5）

［その他］

課題 ID：2014 農 001、2018 農 001、2022 農 001

研究課題名：仏花用途以外に使用できる新規キク類の育種素材の育成、新規用途に使用できるキク品種の育成、マム品種の育成

予算区分：県単（沖縄農業を先導する育種基盤技術開発事業）、沖縄振興特別推進交付金事業（先端技術を結集した園芸品目競争力強化事業、労働力不足と環境負荷軽減に対応する沖縄型園芸農業技術開発事業）

研究期間（事業全体の期間）：2016～2017 年度（2014～2018 年度）、2018～2021 年度、2022 年度（2022～2026 年度）

研究担当者：田場奏美、関塚史朗、守屋伸生、赤嶺聖良、座喜味利将、儀間直哉、亀山健太、玉城盛俊、宮城悦子、渡邊武志

発表論文等：田場奏美ら品種登録出願：2024 年 2 月 13 日公表（第 37113 号）